

NCNPプレスリリース (<https://www.ncnp.go.jp/topics/>)

- 「細胞分裂に使われる酵素」が脳のシナプス成熟を制御していた  
— 神経細胞が酸化反応を利用してシナプス形成を制御する仕組みを解明 —  
NCNP・理化学研究所 神経研究所 疾病研究第五部 室長 若月 修二、部長 荒木 敏之 (6/15 リリース)
- 統合失調症患者の労働に関わる多層的関連を解析  
— 陽性症状・認知機能低下・日常生活機能の関係を可視化 —  
NCNP・福島大学 精神保健研究所 精神疾患病態研究部 部長 橋本 亮太 (6/22 リリース)
- 小脳アストロサイト多様性の起源を解明  
— 世界最先端Xenium解析で前駆細胞の時間制御分子機構を明らかに —  
NCNP 神経研究所 病態生化学研究部 研究生 陶山 京香、研究員 足立 透真、部長 星野 幹雄 (7/1 リリース)
- アルツハイマー病脳老人斑の蓄積を始める新たなAβ分子種「peak 1 Aβ」を同定  
— 老人斑蓄積を抑制する新たな認知症治療法開発に期待 —  
NCNP 神経研究所 疾病研究第四部 部長 橋本 唯史、  
リサーチフェロー 内上 寛一、神経研究所所長 岩坪 威 (7/21 リリース)
- 1つの遺伝子から生まれた2つのタンパク質が神経細胞誕生の「アクセル」と「ブレーキ」を担う  
— 小脳発達におけるアイソフォームの新たな働きを発見 —  
NCNP 神経研究所 病態生化学研究部 室長 大輪 智雄、部長 星野 幹雄 (7/28 リリース)
- 脳の「予測する仕組み」でロボットが複数の介護動作を学習  
— 脳科学理論から次世代Physical AIへの道を拓く —  
NCNP・早稲田大学 神経研究所 疾病研究第七部 特任研究室長 出井 勇人、室長 山下 祐一 (8/17 リリース)
- ADHDと肥満・糖尿病をつなぐ新たな生物学的関連を発見 ～ADHDの病態にアディポネクチンが関与～  
NCNP・浜松医科大学・大阪大学 精神保健研究所 知的・発達障害研究部 部長 高橋 長秀 (8/19 リリース)
- 合成致死によるアルツハイマー病の新しい発症機序  
— レトロトランスポゾンL1の再活性化が導く神経細胞死の分子メカニズム —  
NCNP 神経研究所 免疫研究部 研究室長(研究当時) 大木 伸司、特任研究部長(研究当時) 山村 隆 (8/28 リリース)

## Nature



## NCNP四季便り

トランスレーショナル・メディカルセンター  
永井 秀明

## ヤマブドウ

日本に自生する野生のブドウです。  
ヒヨドリなどの小鳥に種を運んでもらい、いろんなところに芽生えます。  
センターでもところどころに自生しています。  
秋になると1センチに満たない小さな実が濃い紫色に色づきます。  
栽培されているブドウとは異なる種類だそうです、食べると甘酸っぱい濃い味がして美味しいです。  
見つけたら一粒つまんで味わってください。



## NCNP 診療ニュース

## 医療連携懇談会を開催します

2026.9  
Vol.49

## 診療科紹介

循環器内科

## 各部門紹介

ゲノム診療部

## 専門疾病センター紹介

認知症センター

## 病院紹介

身体的拘束  
最小化チーム

国立研究開発法人

国立精神・神経医療研究センター

National Center of Neurology and Psychiatry

NCNP診療ニュース Vol.49 2026年9月発行

国立精神・神経医療研究センター病院

〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1

Tel.042-341-2711(代表) <https://www.ncnp.go.jp/>

NCNP  
病院  
診療科紹介

## 循環器内科

原疾患に寄り添い、  
循環器から支える医療循環器内科 医長  
窪田 雅之

循環器内科は総合内科部の一部門として、筋ジストロフィーをはじめとする筋疾患に合併する心機能障害の診療に加え、精神疾患や脳神経疾患を有する患者さんに併存する循環器疾患の診療を担っています。2026年4月より常勤医師1名、非常勤医師1名の体制で診療・検査にあたっており、その他に心臓超音波検査として非常勤医師2名の診療応援のもと運用しております。

当院は精神疾患、脳神経・筋疾患の専門施設であり、循環器内科の単科入院は受け入れておりませんが、主に循環器内科外来における診療、他科に入院中の患者さんに対する循環器領域のコンサルテーション、各種循環器検査の実施および評価を行っております。問診・身体診察に心臓超音波検査、標準12誘導心電図、ホルター心電図など組み合わせ、循環器疾患の早期発見や病態評価、治療方針の決定に努めています。また、原疾患や患者さんの生活背景、治療環境にも十分配慮し、一人ひとりの状況に応じた診療を心がけています。

当科の特徴は、筋疾患、精神疾患、脳神経疾患など、専門的かつ複合的な病態を有する患者さんの循環器診療に対応している点です。特に筋ジストロフィーで

は、病型や進行に伴って心筋障害、不整脈、心不全などを合併することがあるため、定期的かつ継続的な心機能評価が重要です。当科では、原疾患を担当する各診療科と密接に連携し、治療内容や全身状態を共有しながら、多職種による包括的な医療の一翼を担っています。他院で診療を受けている患者さんについても、必要に応じて紹介元の医療機関と情報共有を行い、円滑な診療連携に努めます。

現在、筋疾患に伴う心筋障害の病態解明と長期予後の改善、より適切な治療介入の実現を目指し、心臓MRIの積極的な活用について検討を進めています。国内外の最新のエビデンスをうまく取り入れながら、専門性の向上と院内外の連携強化を図り、患者さんが原疾患の治療を安心して継続できるよう循環器内科の立場から支援いたします。病院医療を支える「縁の下の力持ち」として、今後も着実に役割を果たしてまいりますので、何卒ご指導のほど、宜しく願いいたします。

NCNP病院  
各部門  
紹介

## ゲノム診療部

当院における遺伝学的検査・  
遺伝カウンセリングゲノム診療部 部長  
高橋 祐二

ゲノム診療部は、遺伝学的検査・遺伝カウンセリングを軸に、遺伝・ゲノムに関連する診療全般を担っています。臨床遺伝専門医7名、認定遺伝カウンセラー2名の体制で、小児・成人の脳神経・筋疾患の幅広い領域に対応しています。

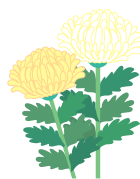
特に2025年から分子検査センターが発足し、保険収載の遺伝学的検査を院内で実施することが可能になりました。2026年9月現在、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、ハンチントン病、遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスの遺伝学的検査を実施しており、今後対象疾患も順次増やしていく予定です。ゲノム診療部では、分子検査センターと緊密に連携して、院内外の遺伝学的検査の実施体制を構築しております。検査前には遺伝学的検査の意義と内容について丁寧に情報提供するとともに、検査結果についても正確にわかりやすくご説明しています。そのほか、大規模ゲノム研究プロジェクトの参加施設として、全ゲノム・全エクソーム解析を中心とした網羅的ゲノム解析も行っており、研究対応を含めればほぼすべての脳神経・筋疾患の原因遺伝子を解析することが可能です。遺伝学的検査でお困りの場合はお気軽にご相談いただければと思います。

ゲノム診療部のもう一つの重要な軸が遺伝カウンセリングです。当診療部内の遺伝カウンセリング室では、遺伝医療の専門職である臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーが、筋ジストロフィーや脊髄小脳変性症といった神経筋疾患、あるいは統合失調症などの精神疾患の遺伝に関するさまざまなご相談に応じています。遺伝カウンセリングは自由診療として行っており、一部の疾患については未発症者を対象とした保因者診断や発症前診断を提供しております。精神・神経・筋疾患領域の遺伝カウンセリングの草分け的存在として、遺伝カウンセリングを数多く実施しており、全国の遺伝カウンセリングの指導・教育にも携わっています。遺伝のことでお悩みのことがございましたら、当院の遺伝カウンセリングを受けていただくことを是非お勧めいたします。



専門疾病  
センター紹介

## 認知症センター



### 診断・治療・予防から若年性認知症まで、幅広く支える認知症医療

認知症センターでは、①ものの忘れを心配されている方や認知症の方に対する専門的診療、②認知症や介護に関する正しい知識の普及・啓発、③臨床研究の推進を三本柱として、幅広い取り組みを行っています。東京都の指定を受け、小平市の地域連携型認知症疾患医療センターとしての役割も担っています。

もの忘れ外来では、精神科、脳神経内科、総合内科が連携し、認知症の診断、治療（抗アミロイドβ抗体薬による治療を含む）、行動・心理症状（BPSD）への対応を行っています。認知症看護認定看護師やソーシャルワーカーが、ご本人、ご家族、行政機関、医療機関からのさまざまな相談に応じ、医療と生活の両面から支援しています。若年性認知症の診療と支援にも力を入れており、若年性認知症支援コーディネーターと連携しながら支援の充実を図っています。

認知症の進行を遅らせるためには、日々の生活の中で予防に取り組むことが重要です。MCI（軽度認知障害）の方を対象に、精神および身体リハビリテーション部と協働し、認知症の進行予防を目的としたリハビリテーションプログラムを実施しています。

認知症は早期から適切な治療や支援を開始することが重要です。早期発見・介入の取り組みとして、小平市と連携し、認知症初期集中支援チームへの参画、

#### もの忘れ外来

|    | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|---|---|---|---|---|
| AM | ○ | ○ |   |   | ○ |
| PM | ○ |   |   | ○ |   |

完全予約制です

認知症センター 司法精神診療部 大町 佳永

認知症センター 看護部 野崎 和美

「もの忘れ相談会」の開催、簡易検査と講演を組み合わせた「もの忘れチェック会」を実施し、専門医療機関への受診につなげています。

認知症の方とご家族が参加できる「オレンジカフェ」を毎月第4水曜日に開催しています。専門医、認知症看護認定看護師、公認心理師、ソーシャルワーカーが相談に応じており、オンラインでの参加も可能です。

研究面では、治験、バイオマーカーやBPSDへの対応に関する研究など、多様な研究活動を推進しています。

今後も地域の医療機関・関係機関の皆様との連携のもと、認知症の方とご家族が安心して暮らせる地域づくりに貢献してまいります。患者さんのご紹介やご相談などがございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。



NCNP  
病院紹介

## 身体的拘束最小化チーム



### 安全と尊厳の両立を目指して ～多職種で推進する身体的拘束最小化～

身体的拘束は、患者さんや周囲の方の安全を守るため、やむを得ない場合に行われることがあります。しかし、その一方で、身体的・精神的な負担をもたらし、患者さんの尊厳やその人らしい生活に大きな影響を与える可能性があります。

近年、患者さんの尊厳を尊重した医療の実現に向け、身体的拘束をできる限り行わない取り組みが進められています。2026年度診療報酬改定においても、身体的拘束最小化に向けた体制整備だけでなく、継続的な改善活動や職員教育、多職種による検討の重要性がより明確に示されました。

当院では、「身体的拘束の頼らない医療とケアの実践」の基本方針を宣言し、5月には定義の見直しを行い、身体的拘束最小化チームを中心に、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、事務職など多職種が連携・支えあいながら取り組みを進めています。日々の病棟カンファレンスに加え、身体的拘束最小化チームが定期的に病棟ラウンドを行い、「解除できないか」「他に方法はないか」という視点で、身体的拘束の最小化や診療記録の充実に向けた検討を重ねています。



身体的拘束最小化チーム / 副看護部長  
土師 菜緒子

身体的拘束を減らすためには、患者さんの行動だけを見るのではなく、その背景にある要因や身体的特徴を理解することが重要です。当院患者さんの特徴として、四肢に拘縮がある場合や、無意識に自身の身体を掻いて傷つけてしまうなどがあります。せん妄予防や療養環境の調整、不快感への対応だけでなく、やむを得ず身体的拘束が必要となったとしても、身体的特徴をふまえた用具の選定など、一人ひとりの状態に応じたケアを実践しています。

身体的拘束最小化は、特定の部署や職種だけで実現できるものではありません。患者さんの安全を守りながら、その人らしさや尊厳を大切にするためには、病院全体で目標を共有し、日々の実践を積み重ねることが重要です。当院では今後も、多職種で支えあいながら身体的拘束最小化を推進してまいります。

#### 身体的拘束実施時の診療録記載

| 必須記録項目     | 記載すべき具体的な内容                                                      |
|------------|------------------------------------------------------------------|
| 緊急やむを得ない理由 | 身体拘束の3原則（切迫性・非代替性・一時性）を満たしている理由。代替案（見守り、環境調整など）を検討した結果、拘束に至った経緯。 |
| 身体的拘束の態様   | 使用した用具や拘束の方法（例：ミトン型手袋の着用、体幹抑制帯の使用など）。                            |
| 実施時間       | 拘束の「開始時間」と「終了時間（解除時間）」の両方。継続中の場合は再評価の日時。                         |
| 患者の心身の状況   | 拘束を決定した時点、および実施中の患者の意識状態、精神症状、身体の動き。                             |



ラウンドの様子

NCNP病院公開講座等開催予定表

| 開催月日・曜日            | 公開講座                    | 主催部門                    | 参加予定人数        | 開催形式       |
|--------------------|-------------------------|-------------------------|---------------|------------|
| 9月19日(土)           | PDおよびPD関連疾患について         | パーキンソン病・運動障害疾患(PMD)センター | 対面20名、WEB 60名 | 対面+WEB開催   |
| 9月30日(水)           | MS/NMO講演会               | 多発性硬化症(MS)センター          | 100名          | WEB開催      |
| 10月3日(土)           | 認知症市民公開講座               | 認知症センター/認知症疾患医療センター     | 120名          | 対面+WEB開催   |
| 11月7日(土)           | パーキンソン病/パーキンソン症候群の嚥下と栄養 | 嚥下障害リサーチセンター            | 50名           | WEB開催      |
| 12月5日(土)           | 気分障害センター市民公開講座          | 気分障害センター                | 400名          | WEB開催      |
| 12月12日(土)          | 専門看護室ケアセミナー             | 看護部専門看護室                | 100~200名      | WEB開催      |
| 12月16日(水)          | ME/CFS講演会               | 多発性硬化症(MS)センター          | 100名          | WEB開催      |
| 12月20日(日)          | てんかん診療コーディネーター研修会       | 総合てんかんセンター              | 250~300名      | WEB開催      |
| 2027年<br>1月17日(日)  | てんかん市民公開講座              | 総合てんかんセンター              | 100~120名      | WEB開催      |
| 2027年<br>2月20日(土)  | 睡眠障害センター市民公開講座          | 睡眠障害センター                |               | WEB開催      |
| 2027年<br>1~2月予定    | 脳神経小児科市民公開講座            | 脳神経小児科                  | 50~100名       | WEB開催      |
| 2027年<br>3月2日(月)予定 | プリオン病について知ろう            | 総合内科部                   |               | 録画によるWEB配信 |

医療連携懇談会開催のご案内

病院長  
戸田 達史

平素より、国立精神・神経医療研究センター病院の診療・医療連携にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、地域の医療機関の皆様との連携をより一層深めることを目的として、「医療連携懇談会」を開催いたします。当日は当院の現況報告をはじめ、各診療科や児童精神科の取り組みをご紹介しますとともに、意見交換の機会を設けております。

皆様との交流を通じて、より良い医療連携の推進につなげてまいりたいと考えております。ご多用のところ恐縮ではございますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

国立精神・神経医療研究センター病院  
**医療連携懇談会**  
地域連携施設の皆様へ  
地域連携施設との連携強化を目的として、医療連携懇談会を開催いたします。

令和8年  
**10.28(水)**  
参加費 無料

18:30開場 / 19:00開演  
会場  
国立精神・神経医療研究センター  
研究棟3号館  
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

プログラム  
① 病院からのご挨拶・現況報告  
② 診療科の紹介  
③ 児童精神科の紹介  
④ 意見交換・懇談会

お車でご来場の場合は、当院正面ゲートよりお入りいただき、左手の駐車場をご利用ください。

FAX申込 FAX 042-346-1681 WEB申込 (QRコード掲載予定) 042-341-2711 (代表)

お問い合わせ 国立精神・神経医療研究センター病院 患者サポートセンター 平日 9:00~17:00 (土日祝日を除く)

患者さん優先  
無料シャトルバスの  
のりばのご案内



発着所



西武新宿線・拝島線  
多摩湖線

Seibu Shinjuku Line, Haijima Line,  
Tamako Line

萩山駅

“Hagiya” Station

南口・ロータリー前  
In front of rotary at South Exit

| 萩山駅発 |       |
|------|-------|
| 8時   | 30    |
| 9時   | 00 45 |
| 10時  | 15 45 |
| 11時  | 15    |
| 12時  | 45    |
| 13時  | 15 45 |
| 14時  | 15 45 |
| 15時  | 15    |
| 16時  | 15    |



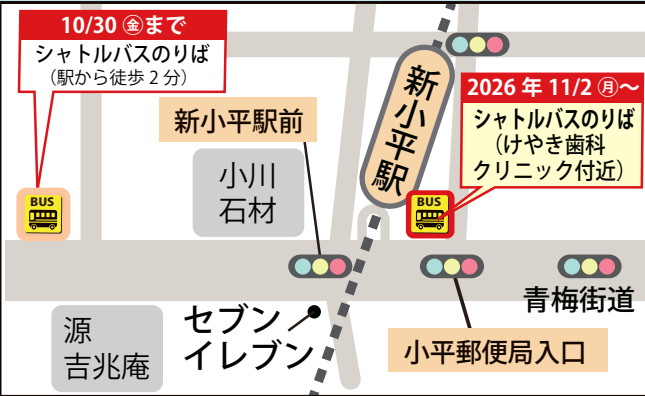
国立精神・神経医療研究  
センター病院  
National Center Hospital,  
National Center of Neurology and Psychiatry

NCNP 病院

NCNP Hospital

ロータリー前  
In front of rotary

| 病院発 |        |
|-----|--------|
|     | 新小平駅方面 |
| 9時  | 10 50  |
| 10時 | 20 50  |
| 11時 | 20     |
| 12時 | 50     |
| 13時 | 20 50  |
| 14時 | 20 50  |
| 15時 | 50     |
| 16時 | 20     |



JR 武蔵野線  
JR Musashino Line

新小平駅

“Shinkodaira” Station

※駅前ビル工事終了に伴い、2026年11月よりバスののりばを以前の位置に戻します。最新情報は病院 HP をご覧ください。

11月~けやき歯科クリニック付近  
From November Near Keyaki Dental Clinic

| 新小平駅発 |       |
|-------|-------|
| 8時    | 15 45 |
| 9時    | 20    |
| 10時   | 00 30 |
| 11時   | 00 30 |
| 12時   | 30    |
| 13時   | 00 30 |
| 14時   | 00 30 |
| 15時   | 00    |
| 16時   | 00    |

【お問い合わせ先】

国立精神・神経医療研究センター病院 広報室➡TEL:042-341-2711 (内線 5601)